

令和2年度 第3回 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針
及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 会議概要

1	審議会名	令和2年度第3回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
2	日時	令和3年3月12日(金) 午前9時30分から午前11時25分まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎 4階「大会議室」
4	出席者	磯野会長、細川副会長、中樞委員、瀧澤委員、水原委員、浅見委員、山田委員、太澤委員、小澤委員、亀井委員、今泉委員、藤原委員、丸山委員、望月委員 計14名
5	市側出席者	山田市民生活部長、地域づくり課 高橋課長、児玉課長補佐、寺島主任 藤原主任、土屋地域おこし協力隊員
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人 1人	記者 1人
8	会議概要作成年月日	令和3年3月22日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 報告事項
 - ① 令和2年度に実施した個別協働事業の評価
 - ② 令和2年度に実施した個別協働事業の概要（事例集）
- (4) 協議事項
 - ① 協働推進行動計画に基づく進捗状況と
令和3年度の市民活動サポートセンターの事業計画
- (5) その他
 - ① 令和3年度の協働委員会
- (6) 閉会

2 会議事項概要

- (1) 開会（細川副会長）
- (2) あいさつ（磯野会長）
- (3) 報告事項
 - ① 令和2年度に実施した個別協働事業の評価

※事務局から説明

【会長】

・質問があればお願いしたい。

【委員】

・評価の点数が今後どう生かされていくかが疑問だ。14事業の中で最高得点は「アルプス花街道事業」で、逆に最低得点は「災害時住民支え合いマップ作成研修」だった。17項目にわたっ

で評価されているが、共通して得点が低いのが振り返りの反省の実施について。次年度どう対策するかまで踏み込まないと評価する意味がない。

・アルプス花街道事業は地域づくり課が実施主体だが、なぜ地域づくり課なのか疑問がある。

【事務局】

・振り返りの反省の実施の点数が低い点は、実施した各課と共有して次年度は充実できるようにしたい。

・アルプス花街道事業は、協働事業であるため地域づくり課が担当している。ただ、全ての協働事業を地域づくり課で実施するわけにはいかない。実施主体の組み換えなど検討する必要がある。光城山 1000 人 SAKURA プロジェクトも地域づくり課が所管しているが、それが良いかどうかも含めて検討しなければならない。

【委員】

・行政にはさまざまな計画があるが、行政として市民活動をどれくらい活用できたり、つながれたりしたかを評価していくことが大切ではないか。行政がやりたくてもできないことを、当事者に近い存在として実施できるのが市民の強み。市として市民がどれくらい関わり、行政の計画に反映させることができたかをチェックしてほしい。

【委員】

・行政が実施する協働事業について、振り返りがあまりできていない事業が多いという指摘だが、評価シートを記入する作業そのものが振り返りの機会になる。地域づくり課で全事業を個別に確認するのは大変だ。評価シートに次年度どうしていけばいいかを書く欄を設け、事業主体双方が共有できるようにすれば良い。

・事例集は手間がかかっている。行政との協働だけではなく、詳細でなくて構わないので団体同士の協働も掲載するなど様々な形態があることが分かったら、冊子を見た人が自分ごとに感じることができて良い。

【副会長】

・市の各事業課で大小さまざまな協働事業を行っている。事例集には、たまたま拾い上げた事業が紹介されている。他の事業課が何も行っていないわけではないことは知っておいてほしい。

・各事業課はその理念に基づいて事業を所管しなければならない。アルプス花街道事業は行政内部のいきさつで地域づくり課が所管している。それが良い悪いではないが、目的、理念によって事業を所管することが重要だ。

(4) 協議事項

① 協働推進行動計画に基づく進捗状況と令和3年度の市民活動サポートセンターの事業計画

※事務局から説明

【会長】

・事務局より説明があった。意見をいただきたい。

【委員】

・評価の全体像の説明があった。具体的施策が20項目あるが、計画通りっていない項目の中でも、選ばれた項目が事務局の課題として提示されている。協働推進行動計画には三つの基本方針があるが、私見としては基本方針1が計画の60%の重要性を占めていると感じている。事務局は基本方針の1や2が進んでいる前提で基本方針3が進んでいないと考えている感じがす

る。私は基本方針1を徹底的に見直して、次年度どうするか考える必要があると考える。20項目の具体的施策を限られた人数で検討することは難しい。来年度は3、4項目を重点的に協議しなければ前に進んでいかない。

【委員】

・基本方針1には「市民一人ひとりがまちづくりの主役としての自覚と責任をもてるよう意識づくりに取り組むとともに、あらゆる主体の主体的な市民活動への参画を促進します」とあるが、本当にできるのか。できるものと考えているのか、あくまでも目指しているだけなのか。

【委員】

・地域の活動や市民活動は、身近な所に大小さまざまある。色々な場面で市民活動に関わっていたり、協働という言葉を知らなくても取り組んでいたことは実は協働だったと気付く人が増えたりすることが良い。

・市民活動サポートセンターの来年度の新事業で定期的な交流会がある。大変だと思うが、この事業を行う意味は大きい。やり方は色々あるが、交流会の開催により裾野を広げることで基本方針1の推進になる。センター職員だけでやっていくのはもったいないので、企画をやりたい人が内容を発表して協力者を求めたり、市民活動サポーターが主体で交流会を開いたりするなど、関わる人が増えればより開く価値がある。労力もかかるが、全体に良い影響が出てくる。

【委員】

・三つの基本方針は密接に関係している。基本方針1は究極の目的、姿だと考えている。基本方針の2と3はそれに向けた具体的な方法。具体的な取り組みをいかに「見える化」していくかが大切になる。

・何が協働で何が協働でないかの線引きは難しい。社会福祉協議会の朗人大学事業は、60歳以上の生きがい仲間をつくるのが大きな目的だが、地域活動につなげてほしいという願いもある。カリキュラムにボランティア実践講座を設け、卒業後も何かあればこちらから案内するため、協働の人材育成に当たると考えることもできる。皆さんが取り組んでいることが実は協働のまちづくりだという意識を持ってもらえるような実践例を情報発信することも大切だ。

・月1回の交流会はとても良いが、場所などハード面の整備も課題になる。

【委員】

・なぜボランティアが必要なのかという基本理念が理解されていない。市民活動への動機づけを行った上で現場に出ていかなければならない。

【委員】

・セミナー参加者の実人数が分かった方が良い。延べ人数だと実態を反映できていない場合がある。実人数が少ないのであれば、参加しやすい日時や機会を提供すべきだ。

【事務局】

・セミナー参加者の実人数は把握していない。把握の仕方を検討したい。

・令和2年度の市民活動スキルアップセミナーは日曜日の午前中を中心に、平日の夜にも開催した。参加しやすい日時などで助言をいただきたい。

【委員】

・「スキルアップセミナー」はスキルはこういうものだと定義した上で、向上させるためにどういった方法が必要かという形で実施しなければならない。

・皆さんがそれぞれ取り組んでいることがまちづくりだということを自覚できるような講座を開いていけばいいのではないかと。

【委員】

・令和元年度のセミナーの延べ参加人数の140人は、安曇野市の人口を考えたら少ない。
・協働のまちづくり出前講座を利用したが、職員の意識が高く、説明や資料も分かりやすかった。新型コロナウイルスの影響で開催回数が減ったと書いてあるが、市民が求めていることに応えるようにしていく必要がある。
・災害はいつどこで起こるか分からない。協働事業にある「災害時住民支え合いマップ作成研修」は、社会福祉協議会と連携して充実させなければならないが、評価が低い点が気になる。
・市政を考えた時に一番大切にしなければならない点について、行政と市民による協働で進めていくことが望ましい。

【委員】

・区全体で協働のまちづくりに取り組んでいるが難しい部分がある。区民が知らないうちに協働の取り組みをしていることを分かりやすく発信する必要があるのではないかと。

【委員】

・区と福祉事業所の交流会は私自身も参加して良い機会だった。ただ、集まるのが義務的になるのは良くない。災害時にどうしていくか、区と一緒に検討できると良い。災害時の対応は協働によって明確な成果を出しやすいテーマだと思う。間に地域づくり課が入れば良い協働になる。

【委員】

・3月6日に開かれた「協働のまちづくりフォーラム」に参加した。非常に参考になった。参加した人はどういった人たちか。
・「災害時住民支え合いマップ作成研修」は良い事業だ。安曇野市もいつ地震や水害があるか分からないため、災害時の備えを考える中で協働のまちづくりが進むのではないかと。

【事務局】

・協働のまちづくりフォーラムはオンラインを含めて75人が参加した。市民活動団体の関係者が多く、区など自治会関連の参加者もいた。

【副会長】

・協働のまちづくりの担い手として、住民の他に事業所や会社がいる。企業は地域に大きな影響を与えているため、ぜひ協働の相手としてほしい。

【委員】

・一般市民にまちづくりの関係を説明するときに、横文字が多いと伝わらないため分かりやすい言葉を使ってほしい。仮にその言葉を使わなければならない場合は注釈を付けてほしい。高齢化社会であるため、高齢者が読んで分かる資料でなければならない。

【会長】

・次期計画の第3次計画の作成時には意見を踏まえて作成してほしい。
・市民活動サポートセンターからの日頃の情報提供は分かりやすくなっている。

【委員】

・市民や区民に分かりやすくすることがキーワード。市民活動とはこういうもので、こうやって参加しましょうといったようなガイドブックが必要ではないかと感じる。協働推進行動計画

は行政の役割を書いてあるため、市民が集まってガイドブックを作ることを提案したい。

【委員】

・市ホームページが3月1日にリニューアルされたが、協働のまちづくりはどういう表現にしたのか聞きたい。

【事務局】

・協働のまちづくりは以前から紹介しているが、リニューアルに合わせて表記を変更した点はない。

・市ホームページのトップページから市民活動サポートセンターのページに接続できるように変更した。

【委員】

・これまでの課題を基に次年度の計画を決めていくことが大切。市民に分かりやすくすることや、自分がやっていることが協働だということを広げていくことができれば良い。ガイドブックは良いと思う。

・来年度の事業内容はこれで良いと感じるが、盛沢山なので本当にできるのかが心配だ。関わっている人が楽しいと思うことで、より主体的になっていく。関わっていく過程で、やっていることが協働だったと分かれば良い。協働事例集に自分の活動が載ることで、意識が変わっていく。サポートセンターが大変そうなのが心配だが、ぜひ頑張ってほしい。楽しく交流会を開き、笑顔が見られるように期待している。

【事務局】

・交流会はサポートセンターだけでやっていくのではなく、市民活動団体などが企画を実施するなどして一緒に作り上げていきたい。

【委員】

・交流会はどういった人たちが集まると意味があるか考えると良い。例えば新しくグループを立ち上げたい人向けだとすると、既に活動している人を集めてノウハウを共有する必要がある。

【会長】

・協議、意見交換はこれまでとしたい。

(5) その他

① 令和3年度の協働委員会

※事務局より説明。現在の委員の任期は7月11日まで。4月に公募委員の募集を行う。

【会長】

・最後に一言申し上げたい。2年間会長として、常に協働委員会の意味を考えていた。協働の意識の向上が思うように進まなかったと感じる点は心残りだ。会の名称はその会の目的を表す上で大切だが、現在の名称は長すぎると感じる。事務局には、協働を進める委員会であることがはっきり分かるような名称に変えることを検討してほしい。

・委員会でゆいわく茅野に視察に行ったが、人と人の出会いを大切にしていた。ソフトも大切だがハードも大切。市民活動サポートセンターで来年度から毎月交流会を開くが、日常的に出会える場があることは大切。何らかの形で検討が進めばいい。

・来年度の事業は内容が盛りだくさん。地域づくり課は協働する相手を積極的に探してほしい。

(6) 閉会

【副会長】

・貴重な意見をいくつもいただいた。新年度に向けて事務局には頑張ってもらいたい。「広報あづみの」の発行が月1回になるが、住民と情報を共有することで初めて協働が成り立つ。交流の場を作るというハード面の整備とともに、情報の提供を充実してほしい。これで令和2年度第3回の会議を閉会する。

(午前11時25分 終了)